

御書本文 15880

1-323 高橋殿後家尼御前御返事(衣食御書)

建治02年02月以前 ④ 女人某御返事(1-99)・断簡一〇三・三一・三二・三七と同一書

| | |
|-------|-------|
| 1276年 | 55歳 |
| 定本追文 | 弘安01年 |
| 対照録 | 建治02年 |
| 新編御書 | 文永11年 |

⑦ 高橋六郎入道後家尼

| | |
|-------|----------|
| シタNo. | 26896 |
| 定本追文 | 1619.13 |
| 新定御書 | 1954.03 |
| 縮刷追文 | 20159.06 |
| 御書全集 | 1302.15 |
| 録内 | |
| 録外 | |
| 新編御書 | 751.12 |
| テキスト | |
| 対照録 | 2103.04 |
| 真蹟集成 | 4222.01 |
| 平語 | 27-248 |
| 龍語 | |
| 文段 | |

真蹟断簡、五箇所分蔵。①京都府妙蓮寺上書きと第一紙、通称『衣食御書』②京都府本禅寺第二紙、『定本』は断簡扱い(2974頁)③静岡県西山本門寺第四紙、通称『女人某御返事』④石川県高岸寺第五紙初三行⑤京都府本光寺亮運氏四行・新加。本書は『定本』にては上述の如くバラバラに収録するが、『真蹟集成』『対照録』『新定』が一つの篇とし、『新定』は「上野殿尼御前御返事」とする。しかし文中故人の供養のために、自分は行けないが弟子を墓に遣わしたとの記述が番号203「滅劫御書」と符合し、「滅劫御書」の「故六郎入道」は高橋六郎入道であるから、同氏の死去に際し「滅劫御書」は妻の実家である河合へ(西山殿=妻の父河合入道)、そして本状は妻へ宛てられたものと見て「高橋殿後家尼御前御返事」とした(池田論文『奥風』13号198頁)。前段は驚目一貫の供養に対する礼が述べられ、『法華経』を供養することは諸仏の力となると同時に、自身の力になることが示される。後段は亡夫を偲ぶ尼の心情をねぎらわれ、自ら墓に参りたいが世間を騒がすことにもなるので、弟子を遣わして墓の前にて『法華経』を読ませる旨が述べられている。なお、墓云々の箇所は断簡で欠損部分があり十分に意が取りにくい。

① 対告 ② 刊本番号 ③ 系年 ④ 書名 ⑤ リット ⑥ 和文

| | | | |
|-------|-----|------|-----|
| 定本番号 | 323 | 新定番号 | 381 |
| 対照録番号 | 62 | 鎌倉追文 | |

『定本』の①「衣食御書」(1619頁・番号323)②断簡新加三一(2974頁・番号4-312)③女人某御返事(610頁⑩番号99)④断簡一〇三(2512頁・番号4-103)⑤断簡新加三七(2970頁・番号4-327)は同筆にて、『真蹟集成』『対照録』は「衣食御書」(但し『定本』は②「女人某御返事」を文永九年、③断簡新加を建治④「衣食御書」を弘安元年、⑤断簡を弘安とす⑪『新定』は「上野殿尼御前御返事」とし弘安元年に添ける。『対照録』は「衣食御書」とし建治二年に添ける。『池田論文』(『奥風』13号198頁)は「滅劫御書」を河合入道宛と見、同じ時期に娘である高橋入道伊家尼に入道の追善の為に認められた書状と推定。⑫二年二月日の宗祖本尊の日興添え書きに「富士西山河合入道女子高橋六郎兵衛後家尼御返事に日興申与之」とあり、およそそれ以降建治三年五月四日「①京都府妙蓮寺上書きと第一紙、通称『衣食御書』②京都府本禅寺第二紙、『定本』は断簡扱い(2974頁)③静岡県西山本門寺第四紙、通称『女人某御返事』④石川県高岸寺第五紙初三行⑤京都府本光寺亮運氏四行・新加。以上を『新定』『集成』『対照録』は同一書

⑭ 高橋殿後家尼御前御返事(衣食御書) < 女人某御返事(1-99)・断簡一〇三(4-103)・断簡三一(4-312)・断簡三七(4-327)と同一書 >

御書資料フォーム画面

| 各部の構成 | | |
|-------------|------------------|----------|
| ① 書き出しボタン | ② 選択条件切り替えトグルボタン | ③ 文体表示 |
| ④ 御書名読み文体表示 | ⑤ 刊本番号欄 | ⑥ 系年欄 |
| ⑦ 対告欄 | ⑧ 御書対照欄 | ⑨ 解題欄 |
| ⑩ 書名備考欄 | ⑪ 系年備考欄 | ⑫ 対告備考欄 |
| ⑬ 真蹟備考欄 | ⑭ 写本備考欄 | ⑮ その他備考欄 |
| ⑯ 解題表示ボタン | | |

御書資料フォーム画面では、最新の研究を踏まえた御書に関するさまざまな解題・資料等を表示しています。

縦書きのフォーム画面も用意しています。(フォームの切替は、をクリックします)縦書きフォームも、操作はほぼ同じです。



御書資料の縦書きフォーム

《御書資料フォーム画面専用機能》

①書き出しボタン……御書資料のデータを書き出します。現在表示の御書と全御書(絞込状態の場合は絞り込んだ御書のみ)の書き出しが選べます。

7書出

②選択条件切り替えトグルボタン……検索・絞込の際の選択条件を選べます。

t対告 k解題 s真蹟 p異名

③文体表示……御書の文体(和文・漢文・混交)が表示されています。

和文

④御書名読み……御書名の読みが表示されます。ただし、トグルボタンにチェックを入れておくと、御書名に異称がある場合のみ、漢字で表示されます。

たかはしどのごけあまごぜんごへんじ・えじきごしょ・によに

トグルボタンにチェックがある場合の表示

女人某御返事(1-99)・断簡一〇三・三一・三二・三二七と同一書

⑤刊本番号欄……各刊本御書集の御書番号が表示されています。

| | | | |
|-------|-----|------|-----|
| 定本番号 | 323 | 新定番号 | 381 |
| 対照録番号 | 62 | 鎌倉遺文 | |

⑥系年欄……表示御書の系年と各御書集の系年が表示されています。

| | |
|------------|-------|
| 建治02年02月以前 | |
| 1276年 | 55 歳 |
| 定本遺文 | 弘安01年 |
| 対照録 | 建治02年 |
| 新編御書 | 文永11年 |

⑦対告欄……表示御書の対告者が表示されています。

高橋六郎入道後家
尼

⑧御書対照欄……各刊本御書集の開始頁数・行数が表示されています。

| | |
|--------|----------|
| シテキNo. | 26896 |
| 定本遺文 | 1619.13 |
| 新定御書 | 1954.03 |
| 縮刷遺文 | 20159.06 |
| 御書全集 | 1302.15 |
| 録内 | |
| 録外 | |
| 新編御書 | 751.12 |
| テキスト | |
| 対照録 | 2183.04 |
| 真蹟集成 | 4222.01 |
| 平講 | 27-248 |
| 龍講 | |
| 文段 | |

⑨解題欄……表示御書についての解題を表示します。データをクリックすると、各備考が拡大表示されます。

| 解 題 | |
|-----|--|
| | 真蹟断簡、五箇所分蔵。①京都府妙蓮寺上書きと第一紙、通称『衣食御書』②京都府本禪寺第二紙、『定本』は断簡扱い(2974頁)③静岡県西山本門寺第四紙、通称『女人某御返事』④石川県高岸寺第五紙初三行⑤京都府本光寺堯運氏四行・新加。本書は『定本』にては上述の如くバラバラに収録するが、『真蹟集成』『対照録』『新定』が一つの御書とし、『新定』は「上野殿尼御前御返事」とする。しかし文中故人の供養のために、自分が行けないが弟子を基に遣わしたとの記述が 番号203「滅劫御書」と符合し「滅劫御書」の「故六郎入道」は高橋六郎入道であるから 同 |

⑩書名備考欄……御書名についての解題です。データをクリックすると、中央に拡大表示されます。

| | |
|-----------------------|--|
| p 書 名 備 考 | 『定本』の①「衣食御書」(1619頁・番号323)②断簡新加三一二(2974頁・番号4-312)③女人某御返事(610頁・番号99)④断簡一〇三(2512頁・番号4-103)⑤断簡新加三二七(2978頁・番号4-327)は同筆にて、『真蹟集成』『対照録』は「衣食御書」(但し『 |
|-----------------------|--|

⑪系年備考欄……系年についての備考です。データをクリックすると、中央に拡大表示されます。

| | |
|-----------------------|---|
| g 系 年 備 考 | 『定本』は③「女人某御返事」を文永九年、②⑤断簡新加を建治、①「衣食御書」を弘安元年、④断簡を弘安とする。『新定』は「上野殿尼御前御返事」とし弘安元年に系ける。『対照録』は「衣食御書」とし建治二年に系ける。『池田論文』(『興風』13号198頁)は |
|-----------------------|---|

⑫対告備考欄……対告についての備考です。データをクリックすると、中央に拡大表示されます。

| | |
|-----------------------|--|
| r 対 告 備 考 | 「滅劫御書」を河合入道宛と見、同じ時期に娘である高橋入道後家尼に入道の追善の為に認められた書状と推定。建治二年二月日の宗祖本尊の日興添え書きに「富士西山河合入道女子高橋六郎兵衛後家持妙尼に日興申与之」とあり、およそそれ以降建治三年五月四日「 |
|-----------------------|--|

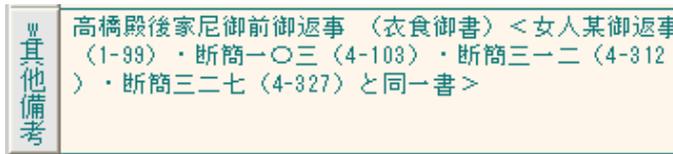
⑬真蹟備考欄……真蹟についての備考です。データをクリックすると、中央に拡大表示されます。

| | |
|-----------------------|--|
| s 真 蹟 備 考 | ①京都府妙蓮寺上書きと第一紙、通称『衣食御書』②京都府本禪寺第二紙、『定本』は断簡扱い(2974頁)③静岡県西山本門寺第四紙、通称『女人某御返事』④石川県高岸寺第五紙初三行⑤京都府本光寺堯運氏四行・新加。以上を『新定』『集成』『対照録』は同一書 |
|-----------------------|--|

⑭写本備考欄……写本についての備考です。データをクリックすると、中央に拡大表示されます。



⑮その他備考欄……⑬～⑰以外の備考です。データをクリックすると、中央に拡大表示されます。



⑯解題表示ボタン……各備考が拡大表示されている時表示され、このボタンを押すと解題の表示に戻ります。

[k解題表示](#)

《御書資料フォーム画面への移動》

御書資料フォーム画面への移動は、メインメニューの [2. 御書資料](#)、または [2資料](#) のある各フォーム画面上から、それらをクリックして移動します。

《御書資料フォームの主な項目》

- **[書名]**: 概ね従来の書名を尊重しましたが本文内容と符合しないものなどは改めました。その場合旧名は括弧で括って残してあります。主な異称はトグルボタンのチェックで「よみ」欄を切り替えて表示できます。
- **[C]**: [書名]欄の隣の数字が[C]の値です。[下記](#)に説明しています。
- **[系年]**: 従来の説を改めた場合は[系年備考]欄に理由を明記してあります。
- **[対告]**: 従来の説を改めた場合は[対告備考]欄に理由を明記してあります。
- **[平講]**: 日蓮聖人遺文全集講義29巻 同刊行会 (当システムでは初版本の頁数を記しています)
- **[龍講]**: 日蓮聖人御遺文講義19巻 日蓮聖人遺文研究会
- **[文段]**: 日寛上人文段集 聖教新聞社
- **[解題]**: その御書の全般にわたって最新の研究成果も取り入れて検討し、新たな解釈などを意欲的に盛り込んだ内容になっています。
- **各[備考]**: [書名][系年][対告][真蹟][写本][その他]の各欄を設けています。名称は[備考]ですが各御書の資料データそのもので、充実した内容になっています。

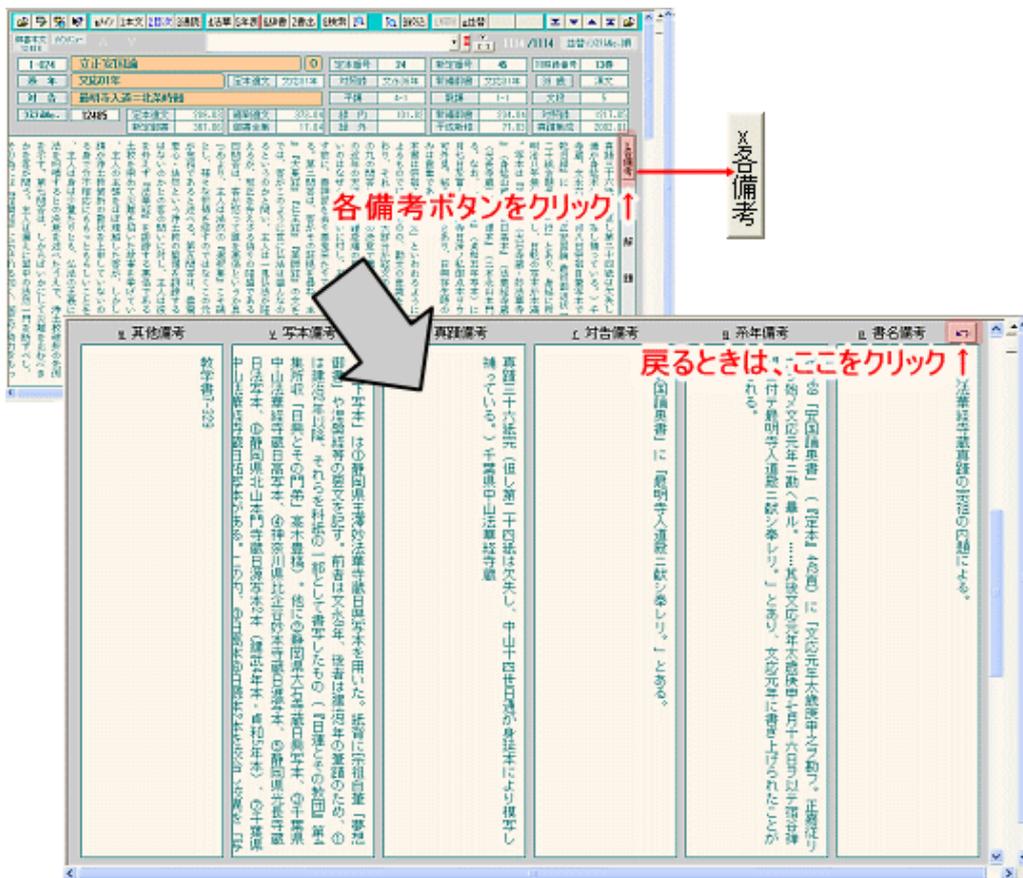
《備考を拡大表示する》

各[備考]には内容が長文につき表示しきれないものがあります。その場合は、各[備考]欄の本文部分かその左ボタンをクリックすれば、中央 [解題] 欄に一時的に拡大表示されます。

戻すときは、同じところを再度クリックするか、[解題] 欄本文、もしくは [k解題表示](#) をクリックします。
※[解題]が長文の場合は、右のスクロールバーを下げながら読みます。元に戻すときは、スクロールバーを上げれば戻りますが、左右の幅の広い灰色の空白部分をクリックしても簡単に戻ります。

※縦書きフォーム画面の場合

各[備考]欄は表示されていませんが、「x各備考」ボタンをクリックすれば[備考]欄に移動します。



縦書きフォームの場合は、「各備考」ボタンをクリックすると備考画面へ変わる

《 C = 全御書を10に部類分け》

[C]は class の頭文字で、部類の意です。御書システムでは、御書を、真蹟・写本の存否、内容の種別、システムの必要性等の理由から10に分類しています。「御書本文」「御書通読」の各行にも付してあります。

(右端の数字は、その C の御書が御書全体に占める割合を[システム版御書]の文字数によって表したものです。)

- C=0 真蹟が完全若しくはほぼ完全な形で現存し、活字御書と対応するもの。 17.6 %
- C=1 真蹟が断簡で現存し、活字御書の断簡と対応するもの。 5.2 %
- C=2 真蹟の断片が現存し、活字御書の一部と対応するもの。 11.6 %
- C=3 真蹟が明治8年の火災まで身延山久遠寺に存在していたもの。 10.0 %
- C=4 真蹟は現存しないが日興書写本の現存するもの。 4.5 % 以上 48.9 %
- C=5 日興上人以外の上代諸師の古写本の現存するもの。 3.2 %
- C=6 上記の0～5と下記の7～9以外の全てのもの。 31.3 %
- C=7 御義口伝と御講聞書。 6.2 %
- C=8 富士門流の相伝書類。 1.5 %
- C=9 偽書と云われるもの。(昭和定本第三巻の第二輯続篇分) 8.9 % 以上 51.1 %

《御書資料フォーム画面での検索・絞込》

御書資料フォーム画面での、検索・絞込の詳細は、

[「主な機能別使い方\(調べる\)」→「E、御書資料\(解題\)を調べる」](#)

をご覧ください。

《御書資料フォーム画面での書き出し》

御書資料フォーム画面での、書き出しの詳細は、

[「主な機能別使い方\(書き出す\)」→「B、御書資料\(解題\)の書き出し」](#)

をご覧ください。

[▲このページの先頭に戻る](#)

[戻る\(現代語訳\)](#) [画面選択](#) [次へ\(御書通読\)](#)